報道発表資料

2013年9月30日

東京工芸大学　芸術学部に新しい学びの「領域」

2014 年 4 月　映像学科に「身体表現領域」を発足

東京工芸大学（学長:若尾真一郎、所在地:東京都中野区/神奈川県厚木市、以下、本学）では、芸術学部の映像学科において、2014 年 4 月 1 日に、従来にない新しい学びの領域として「身体表現領域」を発足いたしますのでお知らせいたします。

1994 年開設の本学芸術学部映像学科では、写真教育の長きにわたる伝統を受け継ぎながら、映画や TV、CM など、メディア・コンテンツ産業に携わる数多くの人材を輩出して来ました。映像学科が設立 20 周年を迎える 2014 年度、新たな学びの領域として「身体表現領域」を設け、メディア芸術の新時代を切り開く進取の精神に富んだ学生諸君を求めていきます。

本学 90 年の歴史の中でも最も新しい学びとなる「身体表現領域」の卒業後の進路先については、俳優、タレント、アナウンサー、声優、MC、ダンサー、アート・プロデューサーなどを想定しており、ジャンルの広範にわたる人材輩出に貢献できるものと考えております。

■映像学科「身体表現領域」の概要

１．発足日：2014 年 4 月 1 日

２．名称：「東京工芸大学　芸術学部　映像学科　身体表現領域」

３．所在地：（1・2 年次の就学）　厚木キャンパス　芸術学部映像学科内
　　（3・4 年次の就学）　中野キャンパス　芸術学部映像学科内

４．主な学習内容と受講カリキュラム

（１）主な学習内容：**「演出」**　　実際にカメラの前に立つことで、「演出」を学んでいただきます。

チャールズ・チャップリン（『街の灯』）、オーソン・ウェルズ（『市民ケーン』）、ヴィットリオ・デ・シーカ（『自転車泥棒』）、ウディ・アレン（『アニー・ホール』）、ロバート・レッドフォード（『普通の人々』）、クリント・イーストウッド（『許されざる者』）、ケヴィン・コスナー（『ダンス・ウィズ・ウルブス』）、メル・ギブソン（『ブレイブハート』）、ベン・アフレックス（『アルゴ』）、北野武（『HANA－BI』）の各氏など優れた俳優は、優れた監督になる資質を秘めています。カメラの前で演技をすることを通じて、映像制作における精髄とも言える「演出」を理解することができるためでもあります。

（２）「身体表現領域」の受講カリキュラム（予定）

1年次	2年次	3年次	4年次
映像制作Ⅰ ・身体基礎訓練	映像制作Ⅱ ・身体基礎訓練 ・発声	映像制作Ⅲ ・身体基礎訓練 ・発声	卒業研究
発声A			
発声B	舞踊ⅡA	舞踊ⅢA	
舞踊ⅠA	舞踊ⅡB	舞踊ⅢB	
舞踊ⅠB	身体映像論Ⅱ		
身体映像論Ⅰ	演劇・芸能論		

５.「身体表現領域」担当教員（芸術学部映像学科 専任教員）

教授 山川直人	早大シネマ研究会在籍中に制作した『ビハインド』(1978) が PFF で入選。『ビリィ★ザ★キッドの新しい夜明け』(1986) で、劇映画デビュー。映画や TV ドラマ、PV などの演出を手がけ、現在に至る。
担当授業科目	映像制作Ⅰ
メッセージ	皆の力を持ち寄ってひとつの映像を作るとき、そこに 1+1＝2 以上の快感を得られることがしばしばあります。これは同時に、人の心を打つ作品に結びつきます。意識の集結が作品の質を高めるのです。新設される身体表現領域では、作り手と演者がコラボレーションしながら、より質の高い映像作品を目指すことができるようになりました。ご期待ください。
教授 大津はつね	1978 年麿赤兒主催の「大駱駝館」に所属。 1979 年パフォーマンス研究集団「ムーサイ」に所属。1981 年 風間正と Visual Brains を結成後、映像制作活動を続け、現在に至る。
担当授業科目	身体映像論Ⅰ・Ⅱ、映像制作Ⅲ　他
メッセージ	私は、かつて建築デザインを通して美術の表現を学びながら、麿赤兒主催の「大駱駝館」で身体表現を学びました。最終的にたどり着いた表現が映像の世界です。身体と映像は多くの事柄について気付く入り口でもあります。皆さんの持っている「意識とからだのものさし」を広げ豊かな人格形成を行い、身体表現の道を探っていきましょう。

６．卒業後の進路先（見込み）

「身体表現領域」を卒業後は、俳優、タレント、アナウンサー、声優、MC、ダンサー、アート・プロデューサー、メディア・アーティスト、研究者　など幅の広いジャンルに進路を見込んでおります。

７．平成 26 年度　入学試験受験科目について　（※詳細は、「芸術学部募集要項」に記載しております。）

（１）AO 入試　　：面接＋課題提出（論述）

（２）一般入試　　：身体表現力（朗読）＋学力試験　　または　　学力試験（単独）

（３）自己推薦入試 ：身体表現力（朗読）＋提出書類

■（ご参考）「身体表現領域」が意味するもの

身体表現（パフォーミング・アーツ）は、最も古くに成立した芸術ジャンルです。
人間の文化が始まった頃、収穫を祝うお祭りの最中に、村の人々が歌い踊り出し、身体という最も基本的なメディアを駆使して、神がかりと呼ばれる、本来の自分とは異なった別の存在になりました。演者（演じる者）と見物（観る者）といった区別はまだなく、共同体の構成員はこのお祭り騒ぎの中で、一体感と共にある種の恍惚感も体験したものと思われます。

ダンスや演劇の基本となる身体表現は、古代ギリシャ悲劇から始まる長い歴史を持つ一方、映画やＴＶが登場して以来、最新のメディア・テクロノジーとも密接な関係を結ぶようになりました。携帯電話を介して公共の空間で集団パフォーマンスを展開する「フラッシュ・モブ」が、現代芸術の一様式としても捉えられているように、現実感の希薄化がますます進む 21 世紀の現在においても、「身体表現」は絶えず社会に新しい意味＝価値を生み出し続けています。その意味でも芸術分野において絶えず新しい価値を生み出し、発信していこうとする本学の考えと「身体表現」の考えが一致しています。

【本リリースに関するお問い合せ先】
東京工芸大学 学事部広報課　　電 話 ： 046-242-9600／ FAX046-242-9638
担 当 ： 山口/林　　e-mail ：university.pr@office.t-kougei.ac.jp